

学校名	佐賀県立致遠館高等学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標に基づいた本年度の重点目標は概ね達成できたが、生徒の主体的な学習への取組や職員の働き方改革には課題が残った。 ・本年度高1からスタートした新学習指導要領が求める「主体的・対話的で深い学び」の実践へ向けて、授業改善・指導力向上を図る。 ・次年度第4期のSSH事業の3年目に当たり、これまでの取組をさらに深化させ、探究活動(普通科)、課題研究活動(理数科)の充実を図る。 ・本年度策定した「目指す学校像(スクール・ミッション)」に基づいて、魅力ある学校づくりを推進する。

2 SAGAスクール・ミッション 学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ○中部地区の県立中高一貫教育校として、これからの時代を見据えた6年間のカリキュラムに基づく教育実践を更に充実させる。 ○理数科・普通科併置の特徴を生かし、未来社会の文化の創造と発展に力をつくす、科学技術人材・グローバル人材を育成する。
----------------------------	--

3 スクール・ポリシー	アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	グラデュエーション・ポリシー
<ul style="list-style-type: none"> (1) 自らの「夢」を実現するために、主体的に学習活動に取り組み、将来、社会に貢献しようという意欲のある生徒 (2) 部活動や生徒会活動、ボランティア活動などに積極的に参加し、勉学と両立することのできる生徒 (3) 普通科：広く社会に関心を持ち、将来は地域社会や国際社会の発展に寄与したいという意欲のある生徒 (4) 理数科：理数教科に強い関心を持ち、将来は科学技術の発展に寄与したいという意欲のある生徒 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 師弟同行のもと、知・徳・体の調和のとれた人材の育成を目指した教育活動の実践 (2) 組織的・系統的な指導体制のもと、生徒一人一人の個性や能力を最大限に引き出すための多様な柔軟な教育活動の実践 (3) 主体的な学びを重視した教科指導のもと、探究活動・課題研究を軸とした教科横断的な学びの推進 (4) 学校行事や生徒会活動、部活動、ボランティア活動などへの積極的な参加を促すことによる協働的かつ体験的な学びの推進 (5) 科学技術人材・グローバル人材の育成のために、SSH事業等による大学・企業等と連携した多様な研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 知・徳・体の調和のとれた生きる力の育成 (2) 自己の希望進路を実現する確かな学力と社会に貢献しようとする高い志の育成 (3) 世界に目を向け、未来を切り拓こうとする進取の気性と創造力の育成 (4) 互いを尊重し、他者を思いやる豊かな人間性の育成 (5) 多様な人々と協働し、課題を発見し解決する探究力の育成 	

4 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 「知・徳・体」つまり「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」バランスのとれた教育の推進 ② 「生きる力」つまり自分で考え適切に判断して行動できる力の醸成 ③ 「主体的・対話的で深い学び」の実践とコミュニケーション能力に富む人材の育成 ④ 教職員にとって働きやすくてやりがいを感じる職場づくり
------------	--

5 重点取組内容・成果指標

(1) 共通評価項目			
評価項目	重点取組		具体的取組
	取組内容	成果指標 (数値目標)	
●学力の向上	○自発的学習習慣の定着と宅習の充実	○進路希望の確定率90%以上 ○家庭学習時間3時間以上 ○3点固定(起床・就寝・学習開始時間)の確立	・目標設定に係るアンケートの実施 ・家庭学習時間を把握した適切な指導 ・学習指導をとおして、学習→授業→復習のサイクルの確立
	○基礎学力の向上と応用力の向上	○授業をとおして学力が向上したと感じる生徒90%以上	・基礎学力の定着を図るため、計画的な学習指導を実施 ・授業アンケートで生徒の学習意識を把握・分析 ・展開授業や少人数授業で個々に応じた指導の充実
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「ふるさと佐賀を誇り思い、佐賀に愛着を感じている」生徒80% ○図書室の貸出冊数を一人10冊以上 ○主催者教育やボランティア活動を通して、社会に参画する態度を養う	・読書啓発活動の実施 ・主催者教育講演会で、社会を構成する一員であるという意識の醸成 ・日々の交通指導、挨拶指導、清掃活動等で公共心・公德心を養う ・新着図書案内や貸出冊数増刷のキャンペーンを適宜行い、周知に努める。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対応等)について組織的対応ができていてと回答した教員95%以上 ○アンケートを活用し、いじめを許さない雰囲気づくりと意識の向上を図る	・いじめの認知・発見に対する対応マニュアルの作成・見直し ・定期的ないじめアンケートの実施で実施把握と早期対応 ・問題発生時の迅速な対策委員会の開催及び組織的対応と関係機関との連携 ・全校集会やHR等で、いじめ防止の啓発活動の徹底
●健康・体づくり	○人権・同和教育の推進	○人権・同和教育問題に対して主体的に理解しようとする生徒、教職員を100%とし、問題に対する意識向上を図る	・人権・同和教育に係るホームルーム活動を学年ごとにテーマを設定して実施 ・教職員及び生徒対象の人権・同和教育に係る講演会実施 ・エイズ予防や性教育に関する講演会の実施による道徳心の涵養
	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	○朝食喫食率を95%以上 ●「健康に良い食事をしている」生徒を95%以上 ○受験期における飲食物摂取の過多・過少に気を配り、自ら食生活を管理できる態度を養う	・保健だよりを活用して朝食の重要性の周知と生徒の意識の向上 ・個々の生徒について、職員間での情報交換と必要に応じた相談・支援の実施
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○部活動(社会体育を含む)や課外活動への意欲的な参加	○部活動(社会体育を含む)への加入率を90%以上 ○部活動計画に基づく休養日の実施率を100%	・部活動体験入部期間を設け、部活動加入の促進 ・ボランティア等の課外活動への参加推進 ・年間部活動計画を策定し、保護者や生徒へHP等を通じて周知 ・部活動休養日の計画的な設定
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日及び学校閉庁日の設定 ・出退勤システムを活用した時間外在校等時間の自己管理の徹底 ・会議や行事の縮減・精選と業務の効率化 ・年間計画に基づいた部活動指導と適切な休養日設定
●特別支援教育の充実	○教職員間の信頼・連携の強化と働きやすい職場づくり	○「働きやすい職場である」と考える職員を90%以上	・職員アンケート(年1回)の実施 ・月1回のゼロの日を設定し、教育公務員としての自覚の再確認 ・校内での職員の相談体制の周知徹底 ・衛生委員会の充実
	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教員70%以上	・校内職員研修の実施 ・シェアリング・シートを活用した職員間の共有と連携 ・個別的教育支援計画(合理的配慮申請書)の適切な運用
(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目			
評価項目	重点取組		具体的取組
	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	
○教育の質の向上	○主体的な学びを重視した授業の推進 ○ICT利活用教育の推進 ○大学入試を見据えた指導の充実	○意欲的、主体的に生徒が取り組めるよう授業改善を進めた教員95%以上 ○ICT利活用教育に取り組んだ教員90%以上 ○大学入試を見据えた効果的な授業のあり方を各教科で研究協議し、指導力を高める	・公開授業の実施による指導力の向上 ・学習評価の研修会を通じた教職員の授業力向上 ・ICTを活用した授業の実施 ・生徒による授業評価の結果に基づいた授業改善 ・入試問題の分析に基づいた校内テストの作問
	★SSH事業の活用 ◎主体的に行動する姿勢と自律心の養成	○自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合75%以上、教職員の割合90%以上 ○課題研究・探究活動で主体的に学んだ生徒を80%以上	・魅力ある教育プログラムとして、SSH事業を充実させ、内外へ発信 ・HP等を活用した、学校の魅力の積極的な発信 ・SSH事業を活用した進路指導法を開発・検討
★普通科教育の充実 ★理数科教育の充実	★国際的な視野と高いコミュニケーション能力の育成	○主体的に情報を収集し、発信できる生徒を90%以上 ○ICTを活用して、知識・技能を深め、自らの資質向上に生かそうとする生徒を80%以上	・学校パンフやHP等を活用した学校の魅力を積極的に発信 ・全職員の共通理解のもと、主体的な学びや学習の深さについて啓発 ・普通科2年生と3年生で探究活動発表会の実施 ・理数科2年生で課題研究中間報告会及び成果発表会の実施 ・理数科3年生で英語による課題研究発表会の実施
	★科学技術の発展や情報化社会に寄与できる人材の育成		